

平成31年度 第2回 立川市自立支援協議会会議概要

会議名称	第2回 立川市自立支援協議会
開催日時	令和元年7月5日（金） 午後6時～午後8時
開催場所	立川市役所 208・209 会議室
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 各専門部会からの報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談支援 (2) 就労 (3) 権利擁護 (4) 地域移行 3. 地域生活支援拠点等について 4. 第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画の中間報告について <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画の進捗管理について (2) 平成30年度実績（速報値）の報告 5. 平成30年度障害者虐待対応報告及び障害者虐待防止センター事業について 6. 立川市医療的ケア児支援関係者会議の報告 7. 障害者施策推進委員会の議事報告 8. グループトーク テーマ「福祉の人材不足について」 9. その他連絡事項 10. 閉会
出席者	<p>[委 員] 加瀬進、寺田悦子、岡部俊一、鶴園誠、須崎篤、飯田絵里、木村憲介、立川武志、小林仁志、遠藤雅子、大山悦子、宮本浩史、鈴木雄大、川越優紀、松本富士子、岡田治、長谷川敬祐、白部貴子、藤田彩也子、澤内清志、泉口哲男（敬称略、順不同）</p> <p>[事務局] 茅沼障害福祉課長、塩塚障害福祉第一係長、近藤障害福祉第二係長、宮川障害福祉第三係長、阿部障害福祉第四係長、加藤業務係長、鈴木障害福祉課主査、鈴木主任</p>
会議資料	<p><資料1> 各専門部会からの報告</p> <p><資料2> 地域生活支援拠点等PTからの報告</p> <p><資料3> 第5期障害福祉計画PDCAサイクル評価・改善管理シート（平成30年度分）</p> <p><資料4> 第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画の目標値に対する実績</p> <p><資料5> 平成30年度障害者虐待対応報告及び障害者虐待防止センター事業</p> <p><資料6> 立川市医療的ケア児支援関係者会議議事概要</p> <p><資料7> 平成31年度第1回立川市障害者施策推進委員会議事概要</p>

1. 開会

2. 各専門部会からの報告

(1) 相談支援部会

資料1「立川市障害のある人の困りごと相談ガイド(案)」について、大まかな説明をした。ガイドについては、市の公共機関ならびに掲載してある事業所、特別支援学校、保健所、医療機関等に置く。部会の連絡会、他の部会の連絡会においても説明をする。

部会内の連絡会については、これまで会長、副会長が参加していたが、今後は手分けして参加しニーズの把握や課題の整理をしてゆく。

意見聴取については今月末までにおこなう。

→ガイド(案)の7ページにおける立川市聴覚障害者協会のFAX番号、042-507-7789に訂正を。また、全ての連絡先にFAX番号を載せて欲しい。

(2) 就労部会(資料1-4参照)

第1回の部会を開催。昨年度、一昨年度の部会を振り返ったうえで、今年度のテーマについては「働き続けるための支援」という案が出た。

今年度は職員の見立てる力を向上させ、来年度は就労が継続できる支援力、つまり繋げる力を向上させることとする。一般就労と福祉就労の2チームには分けることなく進めてゆく。

次回7/24に第2回の部会を開催し、秋以降に具体的な集まりの機会を持つ。

(3) 権利擁護部会(資料1-2参照)

第1回の部会を開催。前年度の取り組みが不十分であったので、今年度は前年度を踏襲することとした。立川市福祉施設交流連絡会と共催して講演会実施を予定。また、7/24にはグループホーム職員を対象に虐待防止をテーマとした講演会を総合福祉センターにて開催する。

グループホーム懇談会が好評であり、さらに、地域福祉コーディネーターとの懇談会も予定している。

(4) 地域移行部会(資料1-3参照)

昨年度までは、検討するといった話し合いで終わっていたが、今年度は具体的に構築してゆく。

三障害でそれぞれチームを作り動いてゆき、来年1月にそれぞれの活動内容をとりまとめて報告会を開催する。

[質疑応答]

→地域移行、3つのグループに分けた経過は？

→分けた方が構築する上でより具体的に深く進めることができる。

→精神でうまくいっている事例があるので、他でもうまく取り込めるよう連携を密にして進めてゆく。

→部会に持ち帰って3つのグループで情報共有して密に連携を。

3. 地域生活支援拠点等について（資料 2-1, 2 参照）

地域の課題を地域で解決する「拠点」というものを作るよう国から示されているが実状 1 1 9 の自治体で立ち上げている程度である。令和 2 年度末までにとのことなので、当市においては来年度の早いうちに、面的整備をしたものでと考えている。

資料 2-3 にあるとおりのプロジェクトチームで進めている。予算が立ち上がった時点でスピードアップして話し合っただけ。これまで拠点とは何か？というイメージを固められなかったので、具体的に話し合っただけで固められればと思っている。

→中間報告という形をしてもらった。機能の 5 つの柱の 5 番目、「専門的人材の確保・養成」については今日のグループトークと重なる部分があるので意見交換を。

→手段が FAX しかなく、面と向かって相談できない。手話ができる環境があれば。

→市障害福祉課に 2 名手話のできる職員を配置している。実際には役所内の他課の相談にも対応しており、そういう方も活躍の場を広げていけたらよい。

→ひきこもり、孤立していてサービスにつながっていない人は対象にしていない？

→誰を対象にするしないと分けるつもりはない。ガイドは置くだけでは目につかないのでホームページを活用し、各所のページにどんどんリンクしていくような工夫をしてゆきたい。

→知的を中心という話があるが、三障害問わず引きこもりはある。社会的無支援者の支援ができたらと思っている。

→面的整備だと、何をもってできた。と言えるのかを考えていかなければいけない。

→市報に載せることになるが、どうやって載せるのかアイデアを募集。

4. 第 5 期障害福祉計画・第 1 期障害児福祉計画の中間報告について（資料 3, 4 参照）

(1) 計画の進捗管理について

昨年度について、事前に運営会議にて振り返り、意見をまとめて案として示している。ここでの意見を加えて最終的に自立支援協議会意見として取りまとめたい。

成果目標 1 「福祉施設の入所者の地域生活への移行」

平成 3 0 年度は 6 名退所、1 1 名入所であり、プラス 5 名。入所者数は 1 1 3 → 1 1 8 名。退所は死亡、入院による要因も含んでいる。

資料 3 の（案）どおりに自立支援協議会意見としてまとめた。

成果目標 2 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」

令和 2 年度末までに、保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置する。

東京都の統計を元にしながら入院状況の把握をしたり、地域移行・定着へ向けてのアウトリーチや新規の働きかけをどういうふうにしてゆくかが課題。また、ピアサポートグループの活用を検討したいという意見が出ている。

成果目標 3 「地域生活支援拠点等の整備」

前の議題のところで説明済み。

各専門部会と連携を取りながら行うことが課題である。

成果目標 4 「福祉施設から一般就労への移行等」

4 ページの目標値、一般就労移行者数は昨年度の数字が空欄となっているが、71 人である。また、就労移行率が 30%以上の就労移行支援事業所の割合についても空欄であるが、22.2%である。

生活面のことや、親亡き後の将来のことを視野に入れて、他の部会と連携していくことが重要である。

成果目標 5 「障害児支援の提供体制の整備等」

児童発達支援センターについては、第二次発達支援計画での検討課題である。保育所等訪問支援は体制構築のかなり前の段階である。重心を支援する放課後等デイサービス事業所は採算の問題もあり進んでいない。医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場は今年度立ち上がった。

資料4 「第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画の目標値に対する実績」について説明

まずは平成30年度の実績値を入れているが、福祉的就労から一般就労への移行については68人は誤りで71人に訂正を。

→各項目について自立支援協議会の意見はこれでいいか。について意見を。

→子どもの部会を是非作ってほしい。

→事務局の方で検討ください。

→来年立川ろう学校が知的の子も受け入れて立川学園に名称変更するので、先生と情報交換したら。

→上手く連携を。

→各項目の自立支援協議会の意見ということであるが、書きぶりの問題で、協議会が意見を言っている。というような表現にしたほうがよい。

5. 平成30年度障害者虐待対応報告及び障害者虐待防止センター事業について（資料5参照）

平成30年度の傾向としては、心理的虐待やネグレクト虐待といったものがあり内容が多様化した。件数は少なければよく、多ければだめということではない。市民の感度も上がってきていることから通報の件数も多くなっていると分析している。

6. 立川市医療的ケア児支援関係者会議の報告（資料6参照）

先日第1回の関係者会議を行った。今年度取り組む内容は、医療的ケア児の実態把握、ニーズ把握をすべく、アンケート調査を実施する。その素案作りに着手している。会議は年4回予定。

それぞれの立場で意見の違いがはっきりとした。アンケート実施後、継続して検討して行く仕組み作りをどうするのが中長期的の課題となる。当事者の話を聴くことも考えている。

7. 障害者施策推進委員会の議事報告(資料7参照)

昨年度から引き続き、第6次障害者計画の策定に向けた検討を続けている。

8. グループトーク

テーマ「福祉の人材不足について」

- ・入所施設における夜間の支援について
昼間の支援が薄くなるという悪循環を呼んでいる。
- ・ヘルパー不足について
支給決定していても派遣できない状態が生じている。
他職種の給料、賃金上がる時は不足の状況となる。
- ・新人の育成方法について
人手不足がゆえにすぐに現場で専門的なことをやらざるを得ず、それが元で辞めてしまうという悪循環がある。
- ・モチベーションの維持について
自分たちでやっていることをきちんと評価してもらえるような仕組みがあると就労が継続するのでは。
- ・待遇について
若い人は大変な仕事は好まない。地域間による賃金格差がある。結果公務員の方に人材が流れてしまう。

9. その他連絡事項

資料3における自立支援協議会意見のとりまとめについて

- 目標1. 「本人の意思を把握する方法には、まだ課題があるが、本人の地域移行に対する意思や気持ちを拾える場所や仕組みを作っていく必要がある。(以下は変更なし)」に修正。
- 目標2. 「アウトリーチの方法や新規の働きかけが課題となっている。」
→ 「アウトリーチの方法や新規の働きかけを行ってゆく必要がある。」に修正。
- 目標3. 「拠点を整備していくことが課題となっている。」
→ 「拠点を整備していく必要がある。」に修正。
- 目標5. 「ネットワークとの連携を図ってゆきたい。」
→ 「ネットワークとの連携を図ってほしい。」に修正。

10. 閉会